



## ジェネックス今月のトピックス♪



### オフグリッドソーラーのご紹介

#### ～オフグリッドとは～

オフグリッドとは、電気が送られてくる送電線と繋がっていない状態のことを言います。電気を自分でつくってしまうという考えですね。

#### ～使い道～

電気を自給自足できるため、災害など停電時でも電気を供給することができます。

そのオフグリッドシステムを使った商品の一例が右の写真になります。太陽光パネルでつくった電気を使用して稼働する水中ポンプです。従来だと水中ポンプを稼働させるために燃料が必要だったり、重たい発電機が必要だったりしましたが、太陽光パネル1枚と水中ポンプのみで稼働させることができるため運搬も楽になり便利です。

晴れてる日にしか稼働しないというデメリットはありますが、蓄電池を組み合わせたれば、より実用的になるのではと思います。ジェネックスも今後このようなシステムを提案していけるようになっていきたいですね。



世界で自然エネルギーへの投資額が増加し続けているように、金融の力で地球環境を良くする試みが活発化している。「グリーンエコノミー」の最前線で何が起きているのか。

#### 金融を改革し「脱炭素」実現

##### ・責任ある投資へ転換

昨年末の第21回国連気候変動枠組み条約締約国会議(COP21)でパリ協定が結ばれた。

21世紀社会は二酸化炭素排出ゼロを目指す。

金融が何のために存在するのか、その本質的な在り方が、いま社会で問われている。

地球環境対策に投じられた税金だけではなく、民間資金を動員して差を埋める必要がある。

金融を変えることで社会や環境にインパクトを与え、グリーンビジネスを育てることが重要である。



##### ・問い直される投資哲学

今、世界では金融そのものの哲学や思想を問い直し、規制やルールを見直す動きが進んでいる。

世界の金融当局や国際通貨基金(IMF)、世界銀行などで構成する金融安定理事会(FSB)は、金融機関と

企業との間で気候変動関連の情報を共有する枠組みの構築を進め、金融機関は自社の金融資産の気候変動リスクを低減させるため、企業にCO2排出削減を求めるようになるだろう。

##### ・グリーン金融を国是に

パリ協定は世界の産業構造を変えるだろう。環境配慮型のグリーン産業が成長する。金融政策だけでなく、産業政策、さらには国家戦略に直結する変化。今やエネルギー転換を抜きに国家戦略を語れなくなった。

成功した国の例として英国がある。英国は世界に先駆けグリーン産業に投資するバンクを設立し約6000億円もの税金を投入した。3年で約70件、約1兆7000億円のグリーンプロジェクトが動く。

英国の家庭で使う電気は全て洋上風力発電で賄われるといった光景が現実味を帯びつつある。

日本のグリーンファイナンス推進機構が手掛けるグリーンファンドは23件、80億円と規模は小さいがCO2を削減し地域が元気になるプロジェクトを応援する。

グリーン金融によるビジネス推進を国是と定めることで、日本の産業界は脱炭素社会に向けて力強く踏み出すことができる。

※地代や賃借料の払い忘れにお気を付け下さい※

「ジェネックス通信」毎月1回発行「いつでもお問い合わせください。」